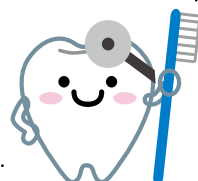


強まる歯科医師の重要性 「全身疾患」と関係が深かった 「お口の健康」



最近、「お口の健康」についての「TV CM」が増えたような気がします。

よく見ると「むし歯予防」に対するものではなく、「歯周病」についてのものが多いのです。

CMの種類は「歯ブラシ」「歯磨き剤チューブ」「マウスウォッシュ」が目立ちます。

インターネットには白衣をはおった歯科医師らしい方の動画が露出しています。

例えば**鈴木歯科医院**（埼玉県さいたま市大宮048-641-0935）

GUMとかシステム、CONCOOL。歯周病系の歯磨き、お気に入りにはCONCOOLらしく塩酸クロルヘキシジンが配合されているので歯周病を殺菌。キシリトール、ハイドロキシアパタイト配合。酸で傷ついた歯のエナメル質に穴が開いた部分を再石灰化して修復。フッ素配合。

研磨剤なしで知覚過敏になりにくい。ポリリン酸も入っている所以歯についたステインを浮かして黄ばみを取れやすくする。

CONCOOLの『クリーニングジェル ソフト』はサンゴパウダー、研磨剤も入っている。PMTTCもできる。

プロが臨床でも使えるし、家でも使えます、というクリーニングジェルは知覚過敏を起こしそうなのでお勧めはできません、という。基本はGUM。もともと研磨剤は少なめ、GUMの「センシティブ」は研磨剤なしのタイプ。システムは「SP-T」研磨剤無配合、バイオフィルムに効くIPMP。SP-Tのうがい薬は顕微鏡で見ると本当に菌が死んでいる。GUMより殺菌力が強い。

あとはアライントイン、組織修復系ですね。





千葉市中央区の歯医者さん **m f デンタルクリニック**の安田先生は「人気の歯周病用歯磨きのランキング」と題して…

まず『アセス』が人気ありますね。

CMでよくやる『生葉（しょうよう）』

歯医者さんがよく勧める歯磨き剤としては『コンクール・ペリオ』ですね。

m fデンタルクリニックではシュミテクトのピンク色のケースが歯周病用ですね。このサンプルを差し上げています。

もちろん歯磨き剤、歯ブラシだけでは歯周病はよくなりませんので原因となっている歯石を除去するために歯科医院でのスケーリング、PMPC、クリーニングが必要になります。

CONCOOLは歯科医師が直接推奨



販売（マージンは50%?）するシステムらしく「薬用マウスウォッシュ」、「フッ素コート歯磨きジェル」などの商品が推奨されています。

スーパーでは「歯ブラシ」から始まって、液体の「リステリン」「モンダミン」「GUM」（アルコール配合の有・無）が並び、小林製薬の「ヒノキチオールで殺菌する」という東洋生薬配合「生葉（しょうよう）」。





おなじみの「ライオン」「花王」。

西洋の生薬なら「サトウ製薬」の医薬品の「歯磨きアセス」。

スミスクライングラクソの薬用「シュミテクト 歯周病ケア」(知覚過敏 虫歯予防 薬用ハミガキ)。

日本自然療法 (株) 発売のプロポリス配合の「デンタルポリス」(医薬部外品 歯みがき)。

サンスターの“歯周病とたたかう「GUM」”からは医薬品の「メディカルペーパストEX」歯みがきチューブ (65 g) が 出 っ て い っ た す。

そこで、大いに悩むのはこのたくさん出ている商品の中からどれを選んだらよ



いのか?判断が付きかねるのです。

まず、間違いがなさそうなのは厚生労働省が医薬品と認定した「医薬品の歯磨き」でしょう。

歯磨き 歯ブラシだけでは歯石は除去できません。どうしても歯医者さんのお世話にならないければ歯石はとれないのです。その歯医者さんが、「マウスウォッシュ」や「歯磨き剤」の知識が足りないようです。これでは患者さんや消費者が困りますね。

「歯周病」と「全身病」の密接な関係

取材前の下調べでは『歯周病と全身疾患』の関係が明確になり歯科医師の重要性が注目されているところです。

「芸能人は歯が命」もそのとおりでしょうが、「歯周病菌が心臓に飛んで心臓病」を、「歯周病菌が糖尿病」を、「歯周病菌」が「未熟児」「低体重」での出産を、肝臓、

腎臓、ED、との関わりが明らかになってきています。

❖ **歯周病菌**がお口の中からいなくなれば全身病に影響はなくなる、と思うのですが、歯医者さんによる**スケーリング**、**ルートプレーニング**、さらに**アドバイス**に従って、毎日の歯磨き、ブラッシング、マウスウォッシュによる殺菌をすれば可能だろうか？

例えば、病気になれば病巣を摘出、細菌に負けないように投薬、体力の回復を待つ…というのがだいたいの病気治療だろう。時にはレーザー治療や放射線治療もあるのかもしれない。

それが歯医者さんの場合は外科的手術をあまりみない。

レントゲンを撮ったり、むし歯を削って埋めものをしたり、抜歯したり、痛み止めを出したり、化膿止めの薬をだしたり、そうそう歯茎を切開したこともあった。

しかし、これからの歯医者さんはドラス



ティックに変わってゆくに違いない。

何せ「全身病」との密接な関係が出てきたのだ。

お口の中だけの狭い環境の医療行為では収まらない。

「歯周病の治療」と「心臓病の治療」を同時並行的に進める必要があるかもしれない。

実際に「歯周病の治療」と「糖尿病の治療」は片方が良くなれば、もう片方もよくなる、という事がわかっている。

いずれ大学も医学部の歯学科という具合になるかもしれない。

